

第4回鳥取駅周辺リ・デザイン会議 議事概要

- 1 日 時 令和6年3月27日（水）14時～16時
- 2 場 所 鳥取市役所本庁舎市民交流棟 2階 多目的室1
- 3 議事内容

【市長あいさつ】

今年度は鳥取駅前広場で賑わい創出の取り組み等を行い、沢山の方の意見を伺ってよい取組であった。また、先般の自動運転実証実験においても委員の皆様にも乗車いただき、新たな取組を進めることができた。自動運転に関しても本日の基本計画（案）にも盛り込んでいきたいと考え、具体的に記載をしている。

本日は、基本計画の原案をご提示するが、大変充実した内容になっていると考える。引き続き、来年度以降も整備計画の策定にあたって、本会議の体制を継続し、より充実した検討を進めていきたい。

最後に、鳥取駅周辺の再生は、鳥取市だけでなく、麒麟のまち圏域の発展にも欠かせないプロジェクトであり、本日も委員の皆様から活発なご意見を賜りたい。

【議題（1）鳥取駅周辺再生基本計画（案）について 意見交換】

資料により説明

1. 事業推進における関係機関の連携の必要性

- ・ 大きな方向性が決まり、内容も若者や子育て世代が豊かなライフスタイルを送れる良いものになっている。今後、整備計画を進めるうえで、土地を所有する県やJRとの連携が必要になるが、どのように考えているか。
- ・ 来年度検討する新しい交通ターミナルや複合施設、広場デザインの検討や事業者に対するサウンディング調査等を効果的に進めるため、開発用地や駅舎を所有するJRや県、経済関係の方との連携が必要。
- ・ 長崎の視察研修へ行ったが、まちとのトータルデザインが特に優れていた。国や県、市が垣根を越えて一つの協議会を構成し、協議を重ねて、今の形になっている点が良いと思う。鳥取駅周辺も完成は7～8年後になると思うが、県や市、JRなどの連携を深め、今後もうまく取り組んでいただきたい。約10年という歳月は、小学生が二十歳になるほどの期間である。鳥取市商店街振興組合連合会としても、駅に負けないような商店街をつくることを目的としているため、今後も立場の垣根を越えて取り組んでいただきたい。

- ・ 県も JR 鳥取駅に土地を所有しているため、しっかりと連携して進めていきたい。役割分担については、今後具体的に調整をしていく必要があると考えている。
- ・ まちづくりに駅は重要であり、JR としても一緒に進めていきたいと思っている。昭和のまちづくりと今のまちづくりは違う。構想段階でも調整しながら進めていただいております、今後も将来に向けて進めていきたい。
- ・ ぜひ、足並みをそろえて進めていただきたく、じっくり進めていると策定した計画もすぐに陳腐化していくため、スピード感をもって、一步一步着実に進めていただきたい。
- ・ 3月の商工会議所のなかでも本会議の検討について取り上げている。様々な意見が出てくると思うが、経済界としても今後も早めに組織全体の役割を与えていただき、協力していきたい。
- ・ 駅周辺再整備は、まちづくりとして大きな役割を担うため、土地所有者だけでなく、特に基盤となる方は役割を意識して進めていただきたい。
- ・ 今後、再整備を進めるなかで、より効果を最大化するために、地に足のついた商業振興や回遊性の向上、まちへの滲み出しも同時に強化する必要があり、商店街振興組合や民間事業者も自らが意識を高めていく必要がある。鳥取市中心市街地活性化協議会としても、袋川沿いや公共空間、市役所跡地などをどのように繋いでいくかというビジョンや駅とパブリックスペースの繋ぎ方を検討しているなど、民間側も頑張りながら、行政に後押しをしていただき、進めていきたいと思う。計画書に記載することは難しいかもしれないが、今後留意いただきたい。
- ・ 民間からも高い期待がある事業なため、市主導だけではなく、民間も含めたポテンシャルを感じられるよう、可能な限り計画書へ反映いただきたい。

2. 公共交通機能の強化に向けて

- ・ 「基本方針① 集約型交通ターミナル機能の再編」について、記載内容はバス事業者としても望んでいる通りの内容であるが、定時性を守るためにバスが待機できる空間など、裏側の部分も配慮して今後検討を進めていただきたい。
- ・ バスターミナルの待機空間の整備など、利用者だけに配慮したまちではなく、サービスの供給側にも優しいまちにする必要がある。バスターミナルだけでなく、その他の機能についても、利用者だけでなく供給者を支援する機能について、次のステージでは考えていただきたい。
- ・ 公共交通利用者の意見として、特急いなばの始発に乗車しようとする、路線バスではダイヤが無く行けない。また、駅内の土産店も空いておらず、そのような利用者目線にも配慮した検討も必要。ただし、全ての要望に応えるのは難しいため、DX技術の活用による無人営業など、新たなビジネスモデルの面からの利便性等について議論すると良い。

- ・ 昨今の 2024 年問題など、交通事業者においても新たな環境下で、厳しい状況を迎える。そのため、バス会社単独での公共交通に取組んでいくのではなく、鉄道やハイヤーなどとも連携していく必要がある。そのためには、国、県、市、JR 等の関係者とも次年度に向けて連携し、協力しながら、バスの機能を高めていく。
- ・ 駅開発は先の長い取組であるが、モビリティの実証などは比較的分かり易く、市民に対しても期待や気運の醸成にも繋がりやすい。今後、モビリティでこんなことができなにか等、勉強しながら取組んでいきたく、引き続き議論させていただきたい。
- ・ DX 技術の活動や新たな取組にもチャレンジしていくことは重要。特に駅前には常に実験場として、新陳代謝が進むように取組んでいくことが必要。

3. 駅周辺再整備が及ぼすまちづくりについて

- ・ 駅を中心にして、市をひとつのモールとして考えているため、駅南側も含めて検討を進めていただきたい。重要なのは、鳥取市に住んでいる人がまちなかに居住してもらうためにどうするかを考えていくことである。
- ・ 県としても、若い世代がまちなかに住むように取組みはしていると思うため、連携して進めたい。
- ・ 鳥取市民のまちなか転居だけでなく、鳥取市の人口が増えることに鳥取駅周辺再整備が寄与できるよう、定住・移住の観点も必要。定住・移住の考え方について、住む方への支援、建てる方への支援について、スピード感をもって進めることが重要。
- ・ 今後、核論になってくると思うが、キーワードは“駅からはじまる”であり、駅を投入要素に市へ生まれる波及効果をひとつひとつ確認しながら進めることが重要。
- ・ 最新の地価公示では、全国的に上昇傾向だが、鳥取では減少傾向。駅周辺再整備を景気として取組を進めていくことで、結果として地価の上昇にもつながると思う。
- ・ 国、県、市、JR の役割や連携はもちろん重要であるが、関係者の立場や役割だけでなく、次の世代を担う、若い人が鳥取へ戻ってきたい、鳥取に住み続けたいという気持ちになるような、他地域にはない鳥取をつくることが重要。
- ・ 南側は建物が少なく、今後はホテルが建つ可能性も考えられる。また、駅南側には、川もあり、水辺の活かし方についての議論も重要。駅南側の道路網は少し複雑であり、南側のまちづくりも並行して考えていきながら、役割分担を意識して検討することが必要。

4. コミュニケーション戦略について

- ・ 今後、関係者のイメージを具現化するために、例えば、シンポジウムや関係会議の場にパースを提示するなどして機運を醸成した方が良い。また、市民や来訪者の機運を高めていくために、スケジュールも含めて提示してはどうか。
- ・ 様々な先進地へ視察に行き、ハード面の観点だけでなく、コミュニケーション戦略

という観点で先進的な地域の取り組みを学ぶことも重要。市民へ徐々に計画内容を出していきながら、機運を高めていくことが良い。

- ・ 鳥取駅周辺再整備が進んでいることへの期待感を大阪や広島、岡山など、広く地域へつながるようにアプローチしてほしい。そうすることで、観光客の増加や商業機能の誘致、インバウンド観光客の増加など、PRを進めて全体の機運が高まるように取り組みを進めた方が良い。本会議の委員にはキーマンが集まっているため、こうしたPRは着々と進めていただきたい。

5. 基本計画（案）の記載に関して

- ・ 市街地全体としての連携強化や、駅周辺再整備がもたらす長期的な効果は計画書に記載した方が良い。駅の利用者だけでなく、市民も訪れたい施設があるなど、今後、より多くの関係者が連携できる仕組みが必要である。
- ・ ターミナル整備をすることが目標のように見えるため、将来的な目標が分かるようにすべきである。3章の課題解決の方向性が、4章の取組の方向性に繋がっているのか、見えづらいがある。将来のモビリティの方向性に関する内容は、将来的なスケジュール感も含めて検討すべきである。
- ・ 駅南側について、新モビリティの導入も触れていく記載にした方が良い。また、将来のモビリティの方向性に関する内容は、スケジュール感も含めて検討すべき。具体的には来年度の整備計画策定のなかでしっかりと議論して方向性を検討する。
- ・ 駅への来訪手段も将来的にどのようなことを想定しているのか、検討しておいた方が良い。例えば、自動車での来訪を考えるのであれば、駐車場の設置など、交通処理の問題が関係してくる。
- ・ パブリックコメントに向けて、本計画はまずは大きなデッサンを描いていくことで本会議委員の同意は図れていたが、住民にも計画書のレベル感が伝わるようにした方が良い。
- ・ 17 ページのパスは検討に応じて変更する可能性があることを提示した方が良い。
- ・ 18、24、25 ページは、“若者や子育て世代”ではなく、“若者や子育て世代をはじめとする”などといった表現にした方が良い。
- ・ 1 ページは、課題の記載に重きを置くのではなく、鳥取駅周辺のポテンシャルの高さを文章に入れて、市民へ期待感を高めるメッセージのあるものにした方が良い。
- ・ そのほか、具体的な内容については事務局へ個別に伝える。
- ・ ただし、修正によりターゲットがぼんやりしないように留意すること。

6. 本計画の今後

- ・ 今後、基本計画の策定に向けて、座長と事務局とで調整し、最終案を各委員へ共有

したのち、策定する流れになる。パブリックコメントの実施結果も踏まえ、大きな変更点があれば、協議の上、本会議を必要に応じて開始し、議論いただくが、基本的には、座長と事務局にて策定を進める。